

教育長定例記者会見 会見録

日時：平成30年2月1日 11時30分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・平成29年度三重県キャリア教育フォーラム
- ・みえ自然科学フォーラム2017

質疑事項

- ・発表項目について
- ・平成29年度スマートフォン等の使用に関する実態調査について

発表項目

(教育長) 私の方から2件、発表させていただきます。まず1つ目に三重県キャリア教育フォーラムのほうです。2月13日(火)に三重県庁講堂において三重県キャリア教育フォーラムを開催します。このフォーラムは、キャリア教育を一層推進し、三重の子どもたちが働くことや職業についての理解を深め、将来自立した社会人として積極的に社会参画できる力を身に付けられるように、平成26年度から開催しています。フォーラムは2部構成となっており、第1部で職場体験等受入事業所への感謝状の贈呈式を、第2部ではキャリア教育に関する実践発表を行います。

第1部の感謝状贈呈式ですけれども、連続5年以上インターンシップを受け入れる等、学校のキャリア教育の推進に貢献いただいている、「職場体験・インターンシップ等」部門の23事業所と、「デュアルシステム」部門の3事業所に感謝状を贈呈します。感謝状の贈呈は平成19年度から行っています。それから、感謝状の贈呈を受けて以降、連続して10年インターンシップを受け入れる等、長年にわたり「みえの人づくり応援隊」として、キャリア教育の推進に貢献いただいている、6つの事業所に特別感謝状を贈呈します。特別感謝状の贈呈は平成28年度から行っています。贈呈事業所は配付した資料の2枚目にお示ししてありますのでご覧いただければと思います。

第2部のキャリア教育実践発表では、テーマを「日々の学びを将来へとつなげるキャリア教育～子どもの成長をどうとらえるか～」として実施します。地域の人材育成に尽力いただいている熊野商工会議所から、小学校を対象とした森林体験や、高校生と大学生・地域が連携して熊野の未来について考える「熊野サミット」等の取組を発表していただきます。それから、本年度キャリア教育文部科学大臣表彰を受賞した四日市市立山手中学校、津市立美杉中学校、県立南伊勢高等学校南勢校舎からは、成果を上げている日頃の実践について発表いただきます。なお、キャリア教育文部科学大臣表彰については、12月4日に資料提供させていただいておりますが、改めてその取組概要について、本日の発表資料にお示ししております。

このフォーラムを通じて、今回参加いただく学校・事業所・経済団体の方が、キャリア教育について理解を深める機会としていただきたいと思います。

2件目ですけれども、みえ自然科学フォーラム2017を、2月17日（土）に三重県総合博物館（Mi e Mu）において開催します。このフォーラムは、平成28年に三重県で開催された第10回国際地学オリンピック日本大会の成果をふまえ、子どもたちが、自然科学分野において、日頃取り組んでいる「探究的な活動」の研究成果を発表しあったり、先進的な研究に触れることで、子どもたちの自然科学に対する興味・関心をより一層深め、「探究的な活動」を県内に普及することを目的として実施するもので、今回が2回目の開催となります。

具体的には、1つ目、中学生や高校生による研究成果発表を行います。これについては、事前に募集を行い、応募があったものです。まず、県内14校の高校生が、自ら設定した課題に対し、フィールドワークや実験を通じて取り組んだ「探究的な活動」の研究成果について、口頭発表やポスター発表を行います。優れた発表に対しては、それぞれ5本程度の最優秀賞を授与することとしています。また、県内の中学生、これについてはまだ募集中のため人数は未定ですけれども、自由研究等の研究成果を展示発表します。昨年度の例ですけれども、高校生の口頭発表では、神戸高校が「サギソウの開花株調査の報告と考察」として、鈴鹿市にある国指定天然記念物である金生水沼沢（かなしょうずしょうたく）においてサギソウの開花株数を拠点的に調査し、開花時期や開花数の経年変化、株の種類について発表を行いました。

2つ目に、県立高校の卒業生による講演会があります。伊勢高校の卒業生で2年生の時に2015年日本学生科学賞で内閣総理大臣賞を受賞した矢口太一さんが、高校在学中に取り組んだ研究への想いや、日本代表として出場したアメリカのインテル国際学生科学技術フェアで学んだこと、これからの研究の展望について講演します。

3つ目は、京都大学生による小中学生向け科学体験講座を実施します。小学生や中学生が実験をとおして科学のおもしろさや不思議さを体験していただく機会としたいと思っております。科学講座では、3Dメガネで宇宙を旅行できる「4Dシアター」や、スピーカーを作成する「ぐるぐるスピーカー」、光ファイバーをもちいた「光るツリー」の作成等を予定しています。

今回は、研究成果発表に中学生や私立高校生が参加できるようにするとともに、新たに小学生、中学生向けの科学体験講座を開催するなどして、幅広く子どもたちに参加してもらえる企画として工夫しました。

いずれも、どなたでも参加・見学していただけますので、自然科学の楽しさを感じていただき、発表が盛り上がるよう、ぜひ多くの方にお越しいただきたいと思います。

以上です。

発表項目に関する質疑

（質）これ細かいですけど、それぞれに5本程度の最優秀賞ってというのは口頭発表とポスター発表それぞれ別についてことですか。

（答）そうです。約10本ですね。

（質）キャリア教育って、どういうことを普段学校でやっているわけですか。

(答) キャリア教育そのものですか。キャリア教育自身はそれこそ、工業高校それから商業高校、農業高校それぞれ、そういったいわゆる職業学科のところで教育をしていますし、普通科高校を卒業する子についても将来の職業を考えて、職に就くことの大切さ、働くことの大切さ、そんなことをいろんな機会を通じて伝えていっているというのがキャリア教育ということになります。今回は、職業高校の子がインターンシップさせていただいて、いろんな事業所の方にお世話になったので、お世話になった事業所の方に感謝状を渡すということになります。

(質) なんか、最近をよく小学生とか、職場体験とかでお店とかに行ったりすると思うんですけど、そういうのはまた違うわけですか。高校生がもう少し具体的に就職先を探したりするとかってこと？

(答) そうです。職業高校の子がインターンシップで、桑名のなんとかの事業所に行ったりすると、職場体験ということではなくて。

(答 高校教育課) 中学生は職場体験とかありますけども、この表彰につきましては、小学生の体験をしていたり、中学生もそうなんですけど、そういったことも取り組んでいただいている事業所が対象となっておりますので、小中高のですね、特別支援学校もそうなんですけど、全ての校種におけるキャリア教育に貢献していただいた事業所について表彰させていただくと、そういう意図でございます。

(質) 三重県の教育委員会とか、三重県の高校ならではの特色あるキャリア教育とかってあるんですか。

(答 高校教育課) 資料にもお示ししたとおりですが、今年も文部科学省の方から表彰いただいておりますけども、そういった形でですね、今年度、文部科学省の方から表彰いただいたものとしたしましては、そこに3つの小学校と中学校と高等学校がありますけども、例えばそういったところが今年度、特に。

(質) いや、これだとぜんぜん何をやってるかわからないんですけど。

(答 高校教育課) 四日市の山手中学校としましては、地域と密着して、地域の産業をテーマにした探究活動を行っていくことで地域のことも見直しながら、自分が貢献できることを学んでいく。あるいは美杉中学校におきましては、職場体験、林業体験もそうなんですけど、地元の特産物を販売する取組をですね、三重テラスで修学旅行の機会を利用して行っていくことで、そういった郷土のすばらしさであったりとか、生徒が実際の生産活動等に関わっていくことの重要性をそこで学んでいくと。それから、南伊勢高校の南勢校舎におきましては、今SBPとかっていう取組も進めておりますが、吉本興業と連携いたしまして、たいみー焼きとかですね、セレクトギフトというようなことを取り組むことによって、起業体験、あるいは販売等の活動を通じての取組で勤労観を養っていくというようなことに、本年度については熱心に取り組んでいただいたということで、今年度表彰いただいたということでございます。

(答) 補足しますと、美杉中学校では、中学校3年生の子が会社を作って、三重テラスへ自分たちで行って、自分たちの作ったものを首都圏の人たちに売ると。そういうことってなかなかよそでは、まあ全国で何番目ですかとか、そんなデータはないんですけど、そういうのを地域の子たちが自ら会社を設立してっていう、そういう面白みがあります。それから南伊勢高校の南勢校舎についてはいろんなことやって、それこそ

たいみー焼きを商品開発したりとか、吉本興業とふるさと劇団プロジェクトをしたりとか、とにかく地域の活性化になるように、自分たちが中心になっていろんなことをやってると。トラックを走らせたりとかもそうですけど、いろんなことをやってますので、それが特色といえ、いろんなこと含めて特色です。山手中学校については、教育課程の中にきちっとプログラムに入れながら、やってるといことが評価されたんだと思っています。

その他の項目に関する質疑

○平成 29 年度スマートフォン等の使用に関する実態調査について

(質) スマートフォン、今日これ、定例会で報告したと思いますが、委員の方から何か意見が出たのか、何らか対処が必要という意見とかということと、教育長はこの結果についてどう思われているのかお聞かせください。

(答) 委員からの意見ですが、まずケータイを使うというのが、当たり前になってきたので、調査もどちらかという、これまではケータイの所持率がこれだけに増えてきました、そういう調査になったけど、ケータイを使うことを前提で、また調査とか分析もしていかなければならないのではないですかといったご意見でありますとか、一番、例で言われたのは、調べ物をするというのが、中学生のパーセンテージよりも高校生のパーセンテージのが減っていると、それはどういう理由なのかと、答えを持っているわけではないんですが、例えば、勉強というか教育活動が功を奏して、スマホで調べなくてもいいとなったのか、パーセンテージだけを追うのではなくて、どういうことでこうなったのかということ、また調査していくとよいですねといった意見をいただきました。それから、どちらかというスマートフォンは長く見ていると、ダメだダメだみたいなことがあるけど、利便性ですごくよかったり、相談できないことがLINEでなら相談できるということで、悪いことばかりではないので、そういうことも、先ほど言いましたケータイを使う前提で、次の調査とか、どうしていったらよいのかを考える時代になってきましたねということをご意見としていただきました。

私自身、この調査結果ですけれども、所持率は増えているなど当たり前のことかもわかりませんが、本当にそう思いました。それで、今回いろいろな事件も起きているように、ケータイの使用で困る困らないという調査もあったかと思うんですけど、自然に意識なく事件の被害者として、あるいは加害者になるかもわからないけれど、自然に巻き込まれてしまう入口の所が本当に増えてきているので、そこを、これから子どもたちにどうやってこういうことは危険があるんだよとか、あるいは家族とこういう話をしなければならいんだよとか、そういう内容をきちっと子どもたちに伝えていかなければいけないなと思いました。先ほどの利便性もありましたので、抑止するだけではなくて、本当にスマホを持っている前提のなかで、子どもたちにどうしていかなければいけないか、そういう気持ちを新たにしたいというのが、私の率直な感想です。

(質) 今のところで関連ですが、教育委員会の担当の方に聞いても、ここまでの調査はわかるんですけど、内閣府の調査でも同じような感じだったようなんですが、印象論で、スマホをずっとやっていると思力がなくなるとか、本読む時間がなくなるとか、思

考力がとか、印象論でいろいろなことをいう人がいるじゃないですか。実際のところ、スマホを使うことの学習への影響みたいな、もう少し踏み込んだ調査結果ってないのかなと、いろいろ探してもなかなか見つからないんですが、教育委員会としても、結局使ってますねというところまでですよ。それが思考力とかそういうところにもこういう影響、特に我々の世代は小さいころから、お子さんはすぐ何でもビジュアルで見れて、探したいものをなんでも探せて、いい面もすごくあるでしょうし、一方で悪い面もある。その辺をもう少し踏み込んだ調査はできないものでしょうか。

(答) 先ほど一例を挙げさせていただきましたが、数字を追うだけの調査になってしまっているんで、その相関の分析とか、そういうことは必要かなと思うんですが、ただ、データのそこまで今ないので、次できるかどうかは別ですけど、その時には、ケータイを使うことを前提にして、これだけの時間の子より、これだけの短い時間の子の方がどうだったとか、ルールを決めている子がどうだったとか、因果関係というのを調べるような、内容に踏み込んだような調査をこれからは考えていかなければいけないなと思っています。今はべたで増えました、こうですこうですだけなので、どこまで今回のデータで分析できるかというのは、ちょっと置いといて、先にはそんなことが必要だと考えます。

(質) 次回調査は3年後にするんですか。

(答) 予算的なこともあるのですが、次、3年後できるかどうかとか、1年後か2年後かちょっとわかりませんが、今回の数字を見て、また、いじめ条例の中でも書かせてもらいましたが、SNSとかいろんな状況が出てくると思いますので、そういう関係で、ケータイの調査ということではなくて、別の調査をする必要があると考えたときには、したいなと考えます。

(質) かなり危機的な状況で、しかも、いじめ自殺とかケータイ利用とか、もし事件があったら、また慌ててケータイ、ケータイと騒ぐと思うんですけど、県教育委員会も。こちらも追及すると思うんですけど、だから泥縄じゃなくて、発生前にもうちょっとケータイに対する県教育委員会の対応の強化があると思うんですけど、それはどうですか。

(答) ネットパトロールとか、そういうのもやっているんで、スマホからそういうのを流したら、それをパトロールして、先を探るといったこともやっているんで、できることからやりたいなと思っています。ネット啓発講座とかもやっていますので、そこを保護者の側にも立ちながら、子どもたちの側にも立ちながら、丁寧にやっていきたいなと思っています。

(以上) 11時50分 終了